

# 三味線の基礎知識・地歌編

太い糸が一の糸、真ん中の糸が二の糸、細い糸が三の糸

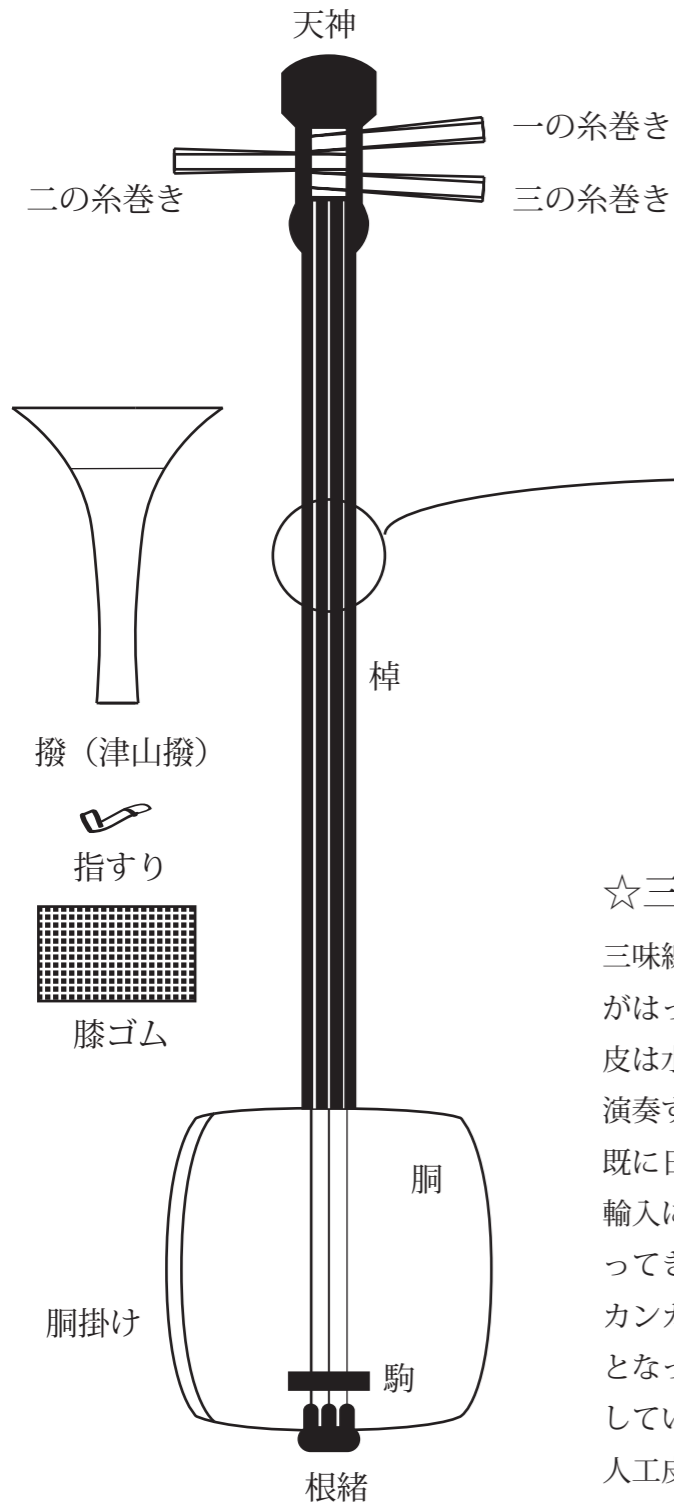
一の糸は楽譜ではイ(にんべん) がつく。

二の糸は楽譜では漢数字。

三の糸は楽譜ではアラビア数字。

※主に箏との合奏で使われる縦枠式楽譜の場合のルールです。

また、地歌の三味線のことを「三絃(さんげん)」と呼んだりもします。



左図の状態から見た場合、  
左から一の糸、二の糸、三の糸の  
順番になります。



## ☆三味線の皮について

三味線の胴は動物の皮(犬、猫、カンガルーなど)

がはってあります。人工皮革もあります。

皮は水気に弱いので水気のあるものは近づけないでください。

演奏する時以外は必ず布かなにかを被せ保護しましょう。

既に日本では犬の皮、猫の皮の製造はほとんど行われておらず  
輸入に頼っておりましたが、現在、輸入も無くなる状況にな  
ってきております。

カンガルーはオーストラリアにおいて数が増え過ぎ駆除の対象  
となっているため犬猫の代用品としてカンガルーの皮を活用  
している形です。

人工皮革もありますが、音色の観点からはまだまだ物足りない  
のが実情です。

イ	1	1	1	5	日本古譜 D 二上り
7 <sup>±</sup>	2	ニ	ニ	ゝ	
5^					
2	7 <sup>±</sup>	1	1	7	
	5^				
●	2	2	2	○	
イ	1	1	1	5	
●	●	1	ゝ	ゝ	
		ニ	ニ		
●	●	一	一	7	
○	○	○	○	○	
イ	後奏	5	5	5	1 前奏
1	ゝ	7	7	2	
イ	7	8 <sup>中</sup>	8 <sup>中</sup>	7 <sup>±</sup>	5^
				5^	
1	○	7	7	2	
イ	5	5	5	一	1
一					
1	ゝ	7 <sup>±</sup>	7 <sup>±</sup>	●	
二		5^	5^		
一	7	2	2	○	
伍	○	○	○	○	

三味線の代表的な調絃  
(基音 = D の場合)

